

果樹の病害情報第1号

(ブドウ、ナシ、モモ、ウンシュウミカン)

令和3年6月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

今年よりも梅雨入りがかなり早く、降水量が多い状況です。
果樹園における病気の発生に注意しましょう。

今年梅雨入りは5月16日と今年よりもかなり早く、今後も果樹の病害発生に好適な条件が続くと予想されますので、感染拡大を防ぐため防除に努めましょう。

1 最近の気象状況

アメダスデータ（地点：名古屋）によると、4月及び5月の平均気温はおおむね平年並で推移していますが、降水量は4月が192.0mm（平年127.5mm）で平年の約1.5倍、5月が254.0mm（平年150.3mm）で平年の約1.7倍と多い状況が続いています。

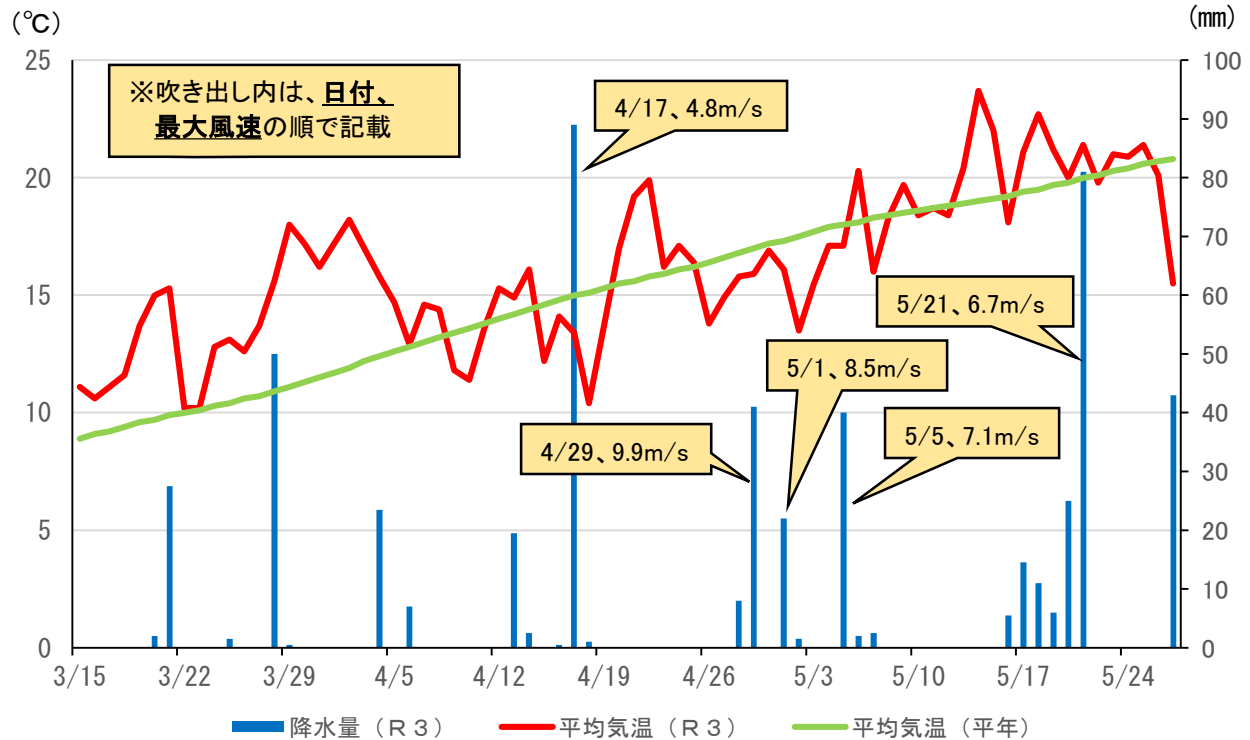


図 3月15日から5月27日までの気象データ（地点：名古屋）

2 今後、発生拡大のおそれがある主な病害

(1) ブドウべと病

5月下旬に行った巡回調査（県内18ほ場調査）において、一部地域で発生が確認されたことから、ブドウべと病の発病葉率は0.33%（平年0.07%、前年0.17%）で、過去10年間と比較して最も高く、発生時期も平年よりやや早い状況です。

発病した葉や果実は伝染源となるので、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。連続した降雨で感染が急速に拡大するので、気象予報に注意し、薬剤散布（ジャストフィットフロアブル（注意：収穫30日前まで）やランマンフロアブルなど）で

防除に努めましょう。なお、県内において、平成 23 年に QoI 剤（FRAC コード：11）の耐性菌の発生を確認しているため、本病に対して使用するのには控えましょう。

（2）ブドウ黒とう病

5 月下旬に行った巡回調査（県内 18 ほ場調査）において、ブドウ黒とう病の発病新梢率は 0.39%（平年 0.28%、前年 0.06%）で、過去 10 年間と比較して 3 番目に高い状況です。

本病は病斑に形成された分生子が雨滴により飛散して感染を繰り返します。ブドウの生育初期や梅雨時期に降雨が続くと多発します。今後の気象予報に注意し、薬剤散布（ホライズンドライフロアブルやマネージDF（注意：いずれも収穫 21 日前まで）など）で防除に努めましょう。また、発病部位は伝染源となるので見つけ次第除去しましょう。特にシャインマスカットは巨峰よりも本病に弱いいため防除を徹底しましょう。

（3）ナシ黒星病

5 月下旬に行った巡回調査（県内 32 ほ場調査）において、ナシ黒星病の発病葉率は 1.09%（平年 0.92%、前年 0.09%）、発病果率は 0.72%（平年 1.20%、前年 0.31%）で、過去 10 年間と比較して平年並の状況です。

しかし、5 月下旬までの降水量が多く、本病の一次伝染に好適な条件が続いたことから、すでに感染した葉や果実が、今後発病する恐れがあります。ほ場の状況を確認し、発病した葉や果実を見つけたら適切に除去するとともに、薬剤散布で二次伝染を予防しましょう。

（4）モモせん孔細菌病

5 月下旬に行った巡回調査（県内 18 ほ場調査）において、モモせん孔細菌病の発病葉率は 3.67%（平年 4.26%、前年 3.67%）で、過去 10 年間と比較して平年並の状況です。

しかし、近年、本病の発生量が増加傾向であり、ほ場における本病原菌密度が高まっていることが推測されます。また、4 月下旬に強風の伴う降雨が発生し、本病の感染拡大が懸念されます。

発病した葉や枝は伝染源となるため、樹勢に影響しない範囲で取り除き、適切に処分しましょう。また、果実への発病を防ぐため、早めに袋掛けを実施しましょう。

強風を伴う降雨が予想される場合は、薬剤散布で防除に努めましょう。なお、品種によっては、まもなく収穫期に入るので、収穫前日数に注意し防除しましょう。

（5）カンキツそうか病（ウンシュウミカン）

5 月下旬に行った巡回調査（県内 22 ほ場調査）において、一部地域で発生が多かったことから、カンキツそうか病の発病葉率は 6.59%（平年 1.79%、前年 3.86%）で、過去 10 年間と比較して最も高い状況です。

本病は、若い葉や幼果ほど感染しやすく、新しくできた病斑から雨によって、さらに感染が拡大します。ほ場内で被害を確認した場合は、二次伝染防止のため薬剤散布（ファンタジスタ顆粒水和剤やストロビードライフロアブルなど）で防除に努めましょう。